

インフォメーション

すべてのお申し込み・お問い合わせはこちら
 TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
 メールでお申し込みの際は、件名を各イベントタイトルとして、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

☆ 講座 初めての市民活動を応援します「はじめてのミニイベント」

日時: 5月28日(土) 企画運営基礎編 午後2時半～午後3時半
 企画書作成編 午後4時～午後5時半
 会場: 仙台市市民活動サポートセンター 研修室5
 定員: 各15名(先着順)
 対象: これから活動を始めようと考えている方
 新しく団体・グループを立ち上げたい方
 新たにミニイベントの企画を予定している団体・グループの方
 手探りで活動していて、イベント実施に不安のある市民活動団体・NPO法人など
 参加費: 無料

仙台市から
**仙台市市民協働事業提案制度
 募集説明会を開催します**

日時: ①5月17日(火) 午後6時半～午後8時半
 ②5月20日(金) 午後6時半～午後8時半
 会場: 仙台市市民活動サポートセンター
 6階セミナーホール

仙台市市民協働事業提案制度とは、地域の課題について、皆さんの提案をもとに、仙台市と協働で解決していく制度です。団体の専門性やネットワークを活かし、仙台市とともに取り組むことで、地域のニーズにこたえることが見込まれる事業を募集します。説明会の内容は、2回とも同じですので、ご都合に合わせてご参加ください。※応募する場合は、①・②のいずれかに参加してください。

詳しくは、下記までお問い合わせください。
 お問い合わせ先
 市民局協働まちづくり推進部市民協働推進課
 TEL 022-214-8002
 FAX 022-211-5986
 Mail sim004100@city.sendai.jp

サポセンスタッフから
市民ライターと学生記者に注目!

2016年度のぱれっとでは、情報ボランティア@仙台に所属する学生記者とサポセンの市民ライター講座を受講した市民ライターのみなさん、サポセンスタッフが一緒に街に飛び出し、それぞれの視点で仙台の市民活動の動きを発信していきます。(松村)

●情報ボランティア@仙台

東日本大震災直後、被害の大きかった三陸沿岸に報道が集中する中、学生たちが仙台圏の情報発信を担ったのが活動の始まり。取材執筆の指導役は河北新報社の記者です。現在は様々な大学に通う約25名のメンバーが所属。震災の風化を防ぐことを目的に、被災地の現状や復興に向けて奮闘する人・団体を学生目線で発信しています。



▲仙台のワクワクビト取材する学生記者

●市民ライター

2014年、2015年に河北新報社とサポセンの共催で行った「市民ライター講座」で、記者から取材執筆を学んだ市民の方々です。講座終了後も、地域で活躍する人の話を聞いてブログで紹介したり、まちの魅力を発掘した記事を新聞に投稿したり、発信する面白さを体感中です。自分たちが発信した情報で仙台にどんな影響を与えられるのか。これから楽しみです。



▲市民活動団体に取材する市民ライター

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは
 様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください
 ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日: 5月11日(水)・5月25日(水)
 開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
 日曜日・祝日 9:00-18:00
 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
 地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
 [HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます!
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>
 情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビト取材しています!
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

熊本地震「救援・支援金情報」
 4月14日夜、九州地方において大きな地震が発生しました。被害に遭われたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。サポセンブログでは、救援・支援情報を随時更新しています。
<http://blog.canpan.info/fukkou/archive/1667>

発行 仙台市市民活動サポートセンター
 発行日 2016年5月1日
 編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
 デザイン PEACE Inc.
 編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子
 発行部数 3000部
 配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 5

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.201

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
 ワクワク
 ビト
 新田 mama*cafe
 まの みか
 代表 眞野美加 さん (37歳)

地域みんなで子育て
 カフェでゆるーくママを応援

自身が暮らす宮城野区新田で、子育て中のママが集う場を「カフェ」と名付けて運営しています。育児の悩みを打ち明け合ったり、子どもと一緒に雑貨を手づくりしたり…。ゆったり流れる時間が、穏やかな親子関係を支えます。

スタートは2009年、当時1歳の娘を育てていた眞野さんの苦悩が出发点でした。毎日娘と家で二人きり。近所に子連れで気晴らしに出かけられる場所もなく、悶々とする中で、「ないなら作ってしまおう!」と自ら動き出しました。転勤族が多いという地域事情もあり、ねらいは的中。ある人は「仙台に引っ越して以来、夫以外の大人と話せたのは今日が初めてです」と涙しました。その姿に「ママたちがつながる場」の大切さを再確認しました。「まずは仲間を増やすことが活動の第一歩」と眞野さん。だから次なる一歩は「子育てに人生の先輩たちの力を借りられないか、地元老人会との接点を模索中なんです」。子育てを糸口に地域のつながりを育てています。

取材・文 三浦侑紀(東北大学3年)
 石田優衣(宮城大学4年)

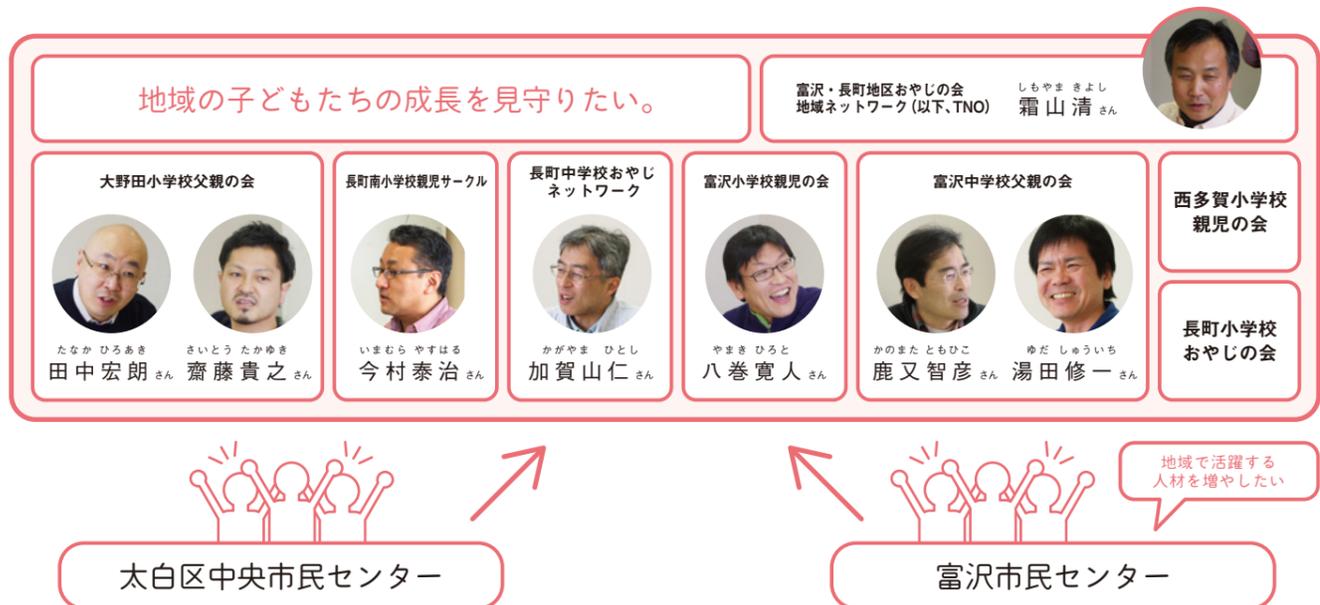
特集
 父親のチカラで子どもとまちが
 楽しくなる/富沢・長町地区おやじの
 会地域ネットワーク推進委員会

新田 mama*cafe
 連絡先 mamacafe_2009@yahoo.co.jp
 新田mama*cafeの会場は、地元の仙台コミュニティセンター(新田2丁目11-30)です。開催はおおむね月1回。参加費はドリンク1杯分(150~300円)程度で、創作やレッスンが伴う時は実費負担です。運営は現在眞野さん1人が担っており、「一緒に活動してくれるママ、ちょっとした習い事教室を開いてくれるママ講師、ママではなくても子どもたちと関わりたい方も随時募集中です」と眞野さん。地域も世代も超えて興味のある人は一度、カフェをのぞいてみてください。



父親のチカラで子どもとまちが楽しくなる 富沢・長町地区おやじの会地域ネットワーク推進委員会

太白区富沢・長町地区は、転勤族や子育て世代が多く、地区の高齢化率が15パーセント前後と仙台市内では比較的若い世代が多く住む地域です。地区内には6つの小学校と2つの中学校があり、子どもを介した地域活動が盛んです。中でも小中学校に通う子どもの父親がつくる「おやじの会」は、地域活動を盛り上げる大きな存在です。各小中学校の父親たちがネットワークを組み活躍する姿を紹介します。



学区を飛び越え結びつく父親たち

おやじの会とは、小中学校に通う子どもを持つ父親たちが、地域の子どもたちの育成と父親たちの交流を目的に集う団体です。富沢・長町地区では、小中学校ごとにおやじの会が結成され独自の活動を行っています。小学校では、児童と家族と一緒に参加できるイベントを主催し、子どもたちが学校生活ではできない経験を積む機会を作っています。一方で、中学校では学校と連携し、地域の夜間巡視などに力を入れ、多感な時期の子どもを地域全体で見守る活動をしています。

会の成り立ちは、PTAの下部組織や、父親たちが有志で立ち上げるなど様々。また、父親だけでなく母親も参加する団体もあります。「職場と家庭に人間関係が限定されてしまうことが悩みだった」と言うのは、大野田小学校父親の会の田中宏朗さん。今まで共有できなかった子育ての悩みを相談できる相手が見つかりました。おやじの会に参加することで互いの交流を深めながら、活躍の場を地域に広がっています。

おやじの会の勢い

学校区ごとに役割を担ってきたおやじの会が、互いの連携を意識したのは2014年に富沢市民センターが主催した地域懇話会でした。各小学校のおやじの会のメンバーが出席するなか、「学校区ごとの役割を担うおやじの会がつながりを持れば活動の幅が広がる」と当時、富沢中学校父親の会のメンバーだった霜山清さんを中心にネットワーク化を構想しました。富沢市民センターも、その思いをバックアップ。2015年夏に「富沢・長町地区おやじの会地域ネットワーク推進委員会(以下、TNO)」が発足しました。

TNOの結成により、学校区ごとに活動をしていたおやじの会同士の情報交換が活発になりました。「他のおやじの会のノウハウを自分たちの活動に活かすことができる」と大野田小学校父親の会の齋藤貴之さん。夏休みに学校に泊り込む学校キャンプの実施にあたり、同じようにディキャンプを開催している富沢小学校親父の会と情報交換しながら楽しい



■連絡先
富沢・長町地区おやじの会 地域ネットワーク推進委員会 (TNO)
〒982-0036 仙台市太白区富沢南1丁目18-10(仙台市富沢市民センター)
TEL 022-244-3977 FAX 022-307-5101

イベント企画を実施。各会の活動に刺激をうけ、連帯感も生まれてきました。2015年10月には、学校区を越えた地域スポーツ交流会を開催。富沢・長町地区の小中学生と各おやじの会のメンバーが綱引きや縄跳びといった競技でコミュニケーションを図りました。今年は助成金を活用し、2回目の実施に向けて準備を進めています。「この秋の交流会は、規模と範囲を拡大して実施しよう！」と意気込みます。

おやじは地域の大黒柱

仕事を持つ父親たちが活動を続けるためのモットーは、「できるときに・できるひとが・できることをする」。市民センターなどと協力し、ゆるやかなつながりを維持しています。「他の家族や子どもたちと関わることで、子育ては地域で担うものだと実感した」とTNOのメンバーは同様に語ります。子どもたちを介した親同士のつながりは、地域に目を向けるきっかけとなり、おやじたちの活躍の場を広げつつあります。もはや、父親たちの存在は、地域に欠かせないものになっています。(取材・文 小野真璃子)

働き方を変えれば企業も社会も、もっと豊かになる！
NPO法人ファザーリング・ジャパン東北 設立記念フォーラム

「仕事も育児も両立しながら楽しく生きていきたい」という父親たちが増えています。時代と地域に合わせた新しい「ババスタイル」を創るため、子育てと仕事を両立しやすい環境を整備するにはどうすれば良いかを考えるフォーラムが開催されます。

●日時:5月21日(土)午後3時～ ●会場:エル・パーク仙台セミナーホール
●参加費:1,500円/事前申込み要
●Mail info@fjtohoku.jp HP http://fjtohoku.jp/

お役立ち本
かかわり方のまなび方
著者: 西村佳哲 / 出版社: 株式会社筑摩書房

人と人の関わり方について、誰もが悩んだ経験があると思います。一方で、人と人との関わりを上手く促し、手助けする人たちもいます。本書は、子どもの創造力を育むアート教室や自殺の電話相談、不登校児の野外活動などで、日々様々な人と向き合う15人のインタビューを紹介。相手の力を引き出したり、気持ちに寄り添ったりする彼らから「人との関わり方」を見つめ直すことができる一冊です。

エコのタネを探しに行こう！
せんだい環境学習館「たまきさんサロン」オープン

自然を楽しむ、人に会い、話すのが好き。そんな人たちが集えるスペース「たまきさんサロン」が東北大学大学院環境科学研究科棟の1階にオープンしました。環境に関する図書や教材の他、環境活動などに使えるセミナースペースなども完備。環境に関わる専門家の話を聞いたり、市民同士で学び合ったりできる「サロン講座」も開催されています。

平日 午前10時～午後8時半 / 土日祝 午前10時～午後5時 休館日 / 月曜(月曜が休日の場合は、その翌日)、祝日の翌日、年末年始 仙台市青葉区荒巻青葉468-1 TEL 022-214-1233 FAX 022-393-5038

「グリーフ」という言葉を耳にしたことはありますか。本来、「悲嘆」を意味する言葉ですが、NPO法人子どもグリーフサポートステーション事務局長の相澤治さんは、「『愛おしい』と思ふ気持ちとも捉えることができます」とあくまで健全な心の反応であると説明します。

仙台市を拠点に活動する子どもグリーフサポートステーションは、大切な人を亡くし喪失体験をした子どもたちの心のサポートをすべく「ワンディプログラム」を実施しています。

みんなで輪を作り自己紹介をした後、日常から非日常に飛び込み分かち合いの時間が始まります。走り回ったり、ただ座っていたり、決められた時間まで自由に過ごします。その間、相澤さんら大人は、そばに寄り添うだけ。同じ体験をした人たちと過ごすことで「ひとりじゃないんだ」と子どもに感じてもらうことがこのプログラムの役割の一つです。



▲「ワンディプログラム」の様子。子どもたちと笑顔をかかず相澤さん(写真右から2番目)

私自身悲しい経験をした時、誰かがそばにいてくれた記憶は忘れたいものになっています。支えてもらった記憶がまた誰かを支える手助けになります。「悲嘆」の感情を他者がすべて理解することはできませんが、寄り添い支え合うことで思いやりの循環ができていくのだと感じました。

■連絡先
NPO法人子どもグリーフサポートステーション
〒980-0022 仙台市青葉区五橋2丁目1-15
TEL 022-796-2710 FAX 022-774-1612
Mail info@cgss.jp HP http://www.cgss.jp